

認知症施策に関する「認知症の人と家族の会」の取組【現状I】

○認知症の人の発信

→認知症希望大使が講演会や地域でのイベント、地域ケア会議などで思いを語るが多くなった。そのことで、認知症の人が「何もできない、わからない人との偏見や誤解を払拭し、聴衆は認知症になっても安心な暮らしがあることへの理解を促している。

○世界アルツハイマーデー及び月間における普及・啓発イベント等の開催

→厚労省から自治体への文書発出で、名所旧跡・企業ビルなどを認知症のシンボルカラーであるオレンジ色に染めるライトアップが急増した。そのことで「家族の会」と行政や認知症関係者の連携がより強化され、認知症啓発活動もコロナ禍ではあったが図書館や行政ロビーなどでも啓発イベントが開催されるようになり、認知症への理解普及が格段に広まった。

認知症施策に関する「認知症の人と家族の会」の取組【現状2】

○認知症サポーター養成講座への参画

→「家族の会」支部世話人が、認知症キャラバンメイト講師で実体験に基づいた講義を行う。認知症の人の暮らしと介護現状への理解が広まり地域での支援体制の構築につながる。

○子どもへの理解促進

→認知症こどもサイトをインターネット上に開設しました。これは身近な人が認知症と診断されたとの「模擬体験をしながら認知症を学び、できることを考えるものです。厚生労働省や文部科学省からもサイトの周知をしていただき、学校や地域で利用されています。